



雪と歩く - 冬の空、冬の森 - 作品展示
只見駅ギャラリースペース 只見 BAUM



待合室の窓越しに雪の絵、その先には秋に開催されたワークショップ「ブナの森の大きな地図と小さな地図」の作品を展示。

(主催：只見町プラセンター 協力：福島県)



待合室の床には参加者が葉っぱや枝、木の実を並べたり、重ねたり千切ったりして描いたブナの森の地図を大きくプリントし展示。「雪と歩く」と同様に只見の自然を味わい、そこから生まれた作品たち。



ただみバウム
只見駅ギャラリースペース「只見 BAUM」へ込める想い

豊かな只見の森には、ブナやナラなどの木々が育ち、たくさんの生き物たちが暮らしています。

雪は森から里へ、川となり、海にそそぎ、また森につながります。

豊かな森や自然も、只見の人のあたたかさも、只見線のはしるこの風景も、これから先の未来につなげていきたい、かけがえのないものです。

『BAUM』は、ドイツ語で『樹木』や『木』という意味を持ちます。

木の年輪のように、つながって、広がって、どんどん育っていく。

只見駅のギャラリースペースの名前を考えると、そんなイメージが、みんなの想いとつながるような気がしました。

只見に暮らす人、只見を訪れてくれた人、みんなつながっていけたらすてきだなと思いました。「只見 BAUM」が、みんなの想いのつながる場所になりますように。

只見線こども会議



「雪と歩く」というちょっと不思議な時間を向かいの山からじっと見守っていたクマタカと望遠鏡越しに目があったような気がしました。ワークショップが終わる頃にはどこかへ去っていきました。雪もまたいつきの旅人のように只見の冬に滞在し、景色の中に足跡をつけるように降り積もり変化しながら循環していきます。そんな雪をテーマとし、旅する人々や町の人々を迎え入れては送り出す只見駅という場にもびったりの作品が完成しました。子どもたちの作品とこの記録紙を通じて、只見の自然との多様な出会いが生まれたらと願っています。

アーティスト 岩田とも子

地面や太陽といった誰にとっても身近でありながら宇宙的なサイクルを想像させる事象に注目し制作を続けるアーティスト。自然観察・採集をワークショップに取り入れ、そこで出会った自然物に対する素朴な視点、そこからはじまる学びと表現を大切にしている。

<http://shizenkansatsu.net/>

アートによる新生ふくしま交流事業「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」
福島芸術計画 2024
雪と歩く ―冬の空、冬の森―

主催：福島県
企画運営：〈福島県立博物館〉小林めぐみ、川延安直、西尾祥子、塚本麻衣子、〈只見町プラセンター〉中野陽介、新国万寿美
共催：只見町プラセンター、只見町役場交流推進課
協力：只見町教育委員会、只見線こども会議
事業受託者：認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島（福島市）
アートで広げる子どもの未来プロジェクトは福島未来を担う子ども達に、将来「新生ふくしま」を推進する人材として活躍してもらうため、多彩なアートプログラムを体験できるワークショップを実施することで、心豊かな成長を支援します。

雪と歩く ―冬の空、冬の森― 記録紙
テキスト：岩田とも子、中野陽介、只見線こども会議
撮影：中野陽介、川延安直、小林めぐみ、塚本麻衣子
編集：川延安直、小林めぐみ、西尾祥子、塚本麻衣子、中野陽介、新国万寿美
デザイン：岩田とも子 発行：福島県

この事業は、国内外からお寄せいただいた寄附金をもとに造成された「福島県東日本大震災子ども支援基金」により実施しています。

